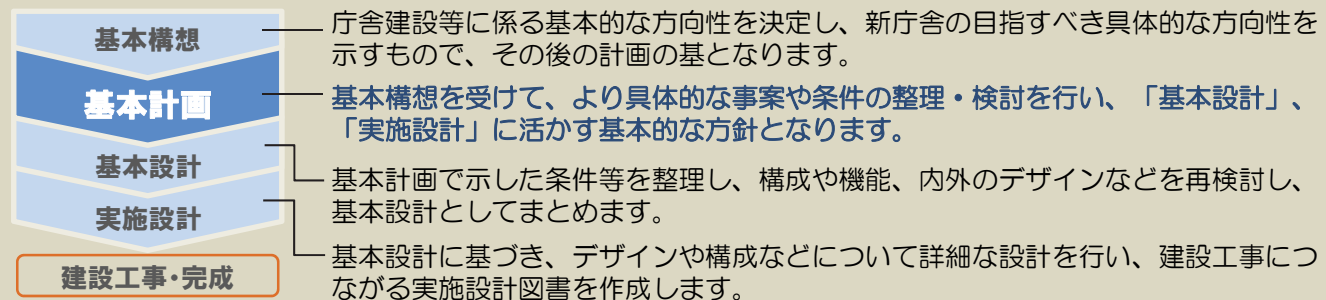


四国中央市 新庁舎建設基本計画

本計画は、新庁舎の建設にあたって備える機能の整備方針や規模、配置計画などの基本的な建設方針を示したものです。

経緯・位置づけ

平成16年	4月	四国中央市発足（川之江市、伊予三島市、宇摩郡土居町及び新宮村合併）
平成24年	7月	市庁舎耐震診断実施
平成25年	8月	新庁舎建設基本方針等の検討開始
平成26年	3月	新庁舎建設基本方針策定（市長基本方針発表）
	8月	新庁舎建設基本構想策定
	12月	庁舎施設整備等調査特別委員会設置
平成27年	5月	新庁舎建設基本計画策定



基本理念

現庁舎の抱える課題を解決し、より良い市民サービスの提供と効率的な行政運営を目指すため、3つの基本理念に基づき、整備に係る具体的な方針を定めました。

現庁舎が抱える課題

- ①庁舎の分散による市民サービス機能の低下、行政運営の非効率化
- ②庁舎の狭あい化・複雑化及び未活用空間の顕在化による市民サービス機能の低下
- ③庁舎の耐震性不足・老朽化による安全性の低下、維持管理費の増大
- ④ユニバーサルデザインに関する問題、高度情報化への対応
- ⑤防災拠点に必要な機能の不足

新庁舎の3つの基本理念

- 1 市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎**
 - ①災害対策、対応機能を強化した庁舎
 - ②安全・安心を備えた庁舎
- 2 市民に親しまれ、利用しやすい庁舎**
 - ①誰もが利用しやすい庁舎
 - ②市民の交流、情報交換が図れる庁舎
 - ③観光、産業の発信地となる庁舎
 - ④地域らしさを活かした庁舎
- 3 環境に配慮し、かつ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎**
 - ①自然環境を利用し、人と自然をつなぐ、環境に配慮した庁舎
 - ②ライフサイクルコストの削減を図る庁舎
 - ③将来の変化に対応可能な庁舎



新庁舎における基本的機能

新庁舎に求められる基本的機能について、次の機能構成で検討を行いました。

窓口機能

誰でもわかりやすく、利用しやすく、みんなにやさしい庁舎

- ・ワンストップサービスを目指し（総合案内係の配置検討を含む）、窓口機能を可能な限り集約して設置します。
- ・案内表示は分かりやすさに配慮します。
- ・相談スペースは、ブース等の配置を検討し、プライバシーを確保します。
- ・待合スペースは、待ち時間の快適性を考慮し、ゆとりを持ったスペースの確保を検討します。

執務機能

行政サービスを効率的・機能的に進められる庁舎

- ・部署間の移動や交流が円滑にできることに配慮し、見通しの良い執務室、会議スペース等を設置します。
- ・行政需要の変化や組織改編等に対応できる間仕切のない執務室、フリーアクセスフロアの採用等、変化に対応できる空間します。

議会機能

市民に開かれ充実した議会機能を持つ庁舎

- ・市民への親しみやすさ、庁舎全体の調和を考慮した議会フロア等とします。
- ・独立性に配慮しつつ、行政執務機能との連携も考慮した空間構成とします。
- ・情報通信環境、録音・録画、中継設備等の設置により議会運営に対応します。
- ・議場及び諸室等の配置、設備機器等、セキュリティ等への対応を図るとともに、議会空間の多目的利用も検討します。

施設管理機能

地球環境に配慮し、庁舎のライフサイクルを通じて環境負荷の低減を目指す庁舎

- ・エネルギー消費量の少ない効率のよい設備機器を採用します。
- ・外の熱を取り込まない、内の熱を逃がさない断熱効果の高い施設とします。
- ・地場木材の活用を検討し、温かみのある庁舎とします。
- ・各種エネルギー消費データの収集、記録・表示など、庁舎の継続的な省エネ運用を目指します。
- ・長寿命な建材、費用対効果に優れた機器の導入等、ライフサイクルコストに配慮した施設とします。

その他機能

市民交流機能：市民協働の場として、親しみやすく多様な活用ができる庁舎

- ・イベントや展示などによる市民の自己表現、市民やボランティア、NPOなどの活動を支援する場の確保を検討します。
- ・開かれた市庁舎を目指し、市民の展示会や集会のできるスペースの検討や、休日等における交流スペースの開放等について検討します。

防災拠点機能：安全・安心の中核として、市民の暮らしを守り続ける庁舎

- ・防災拠点としての耐震性を備えるとともに、災害発生時においても自立した庁舎とします。
- ・災害時等の情報収集・伝達のための消防防災センター防災情報システムとの連携や、情報通信設備を備えた庁舎とします。
- ・災害対策に必要な設備・機材や支援物資の保管、支援部隊の活動支援等、消防防災センターとの役割分担を踏まえ、災害時に確実に機能する庁舎とします。

情報提供機能：市民のにぎわいの場となり、まちの活気を中心となる庁舎

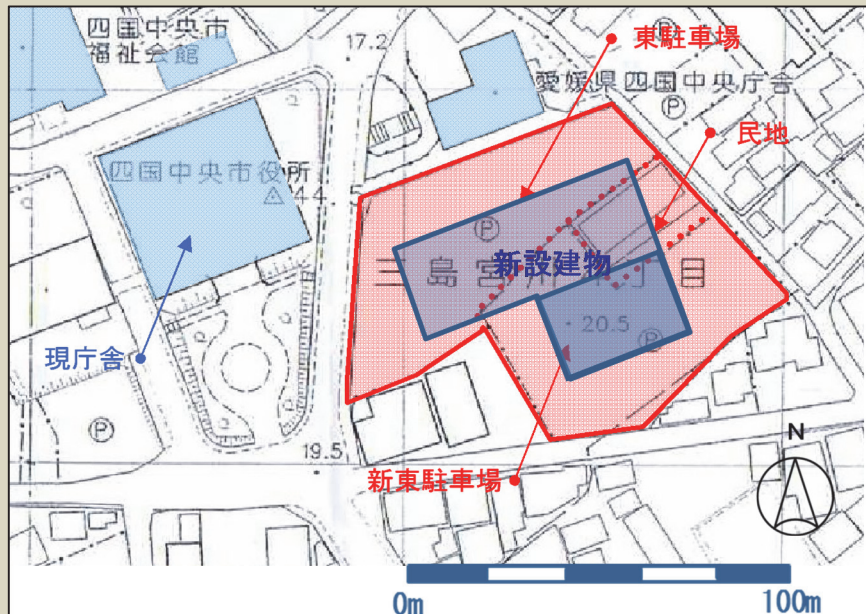
- ・市政情報、市民活動・NPO情報を、来庁者が気軽に収集できる施設を検討します。
- ・新庁舎を中心とした、まちのにぎわいを創出する場となり、だれでも入りやすい庁舎とします。
- ・新庁舎敷地等の休日利用を検討します。

新庁舎建設計画

市の将来への財政負担、事業の実効性及び容易性、さらに地方自治法に規定する「地方公共団体の庁舎位置」の趣旨等を踏まえ、周辺環境が整備された現本庁舎敷地等における検討を行いました。

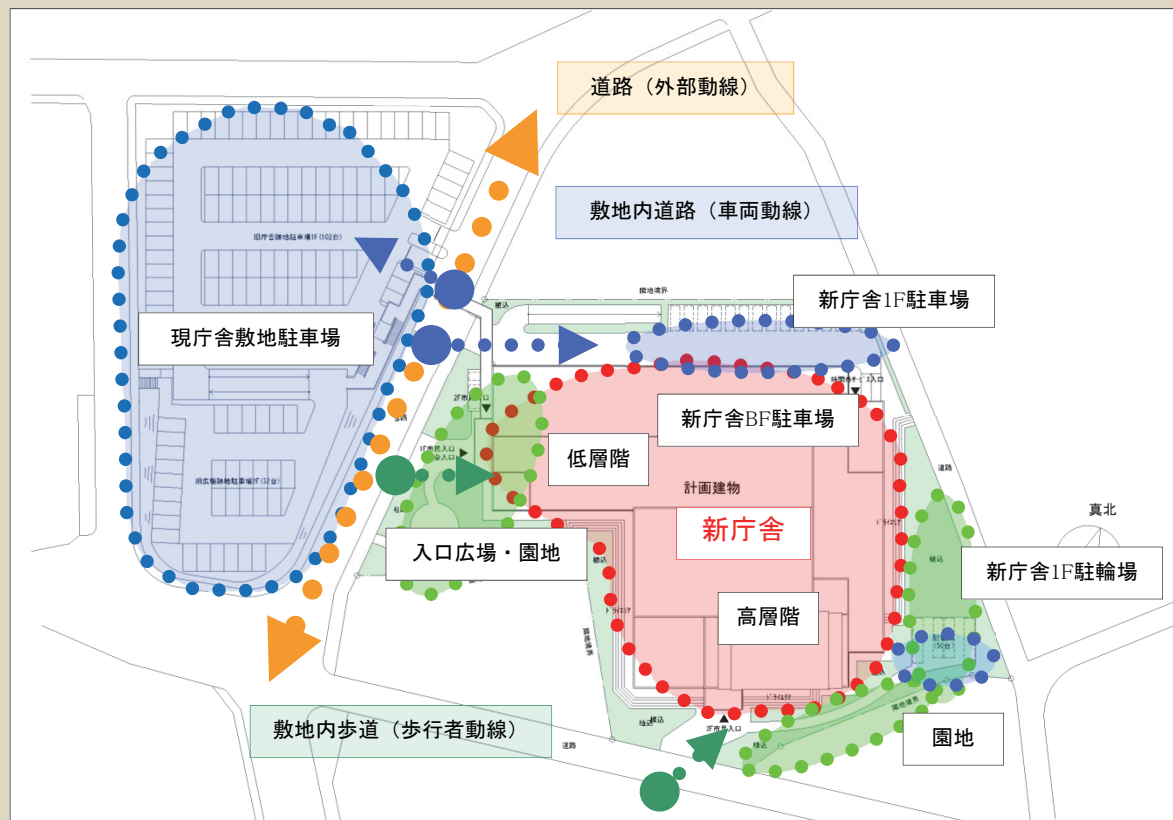
建設予定地

新庁舎建設予定地については、現本庁舎敷地、現本庁舎東・新東駐車場敷地及び図書館東側駐車場敷地における検討を行った結果、**現本庁舎東・新東駐車場敷地（約6,100㎡）**を建設予定地とします。



敷地利用計画

建設地の施設構成及び配置計画は、新庁舎敷地を中心として、現庁舎（RC造・地上5階・昭和48年竣工・解体撤去[平成31年予定]）敷地及び入口広場との利用構成を踏まえた計画とします。



規模

区分	新庁舎規模
庁舎延床面積(地下駐車場を除く)	約13,000㎡
建築面積	約3,500㎡

階別機能配置イメージ

高層階

設備機械室、屋外機置き場、議会関係室、議場、傍聴ロビー、事務室、会議室、倉庫等

低層階

玄関、事務室、会議室、倉庫等、総合受付案内、市民情報展示コーナー、市民交流開放スペース、福利厚生スペース、時間外出入り口、建物管理室、宿直室等

地下階

駐車場、倉庫等

その他

意匠計画

現庁舎は前面に公園広場を有し正面性が高く、地域のシンボルとなっています。そのため、新庁舎は現庁舎敷地に隣接しており、前面広場からの正面性と地域の顔としてのシンボル性を継承するデザインとします。

構造計画

新庁舎は、災害応急対策活動の中核となる施設であることから、「官庁施設の総合耐震計画基準」に基づき、災害対策の指揮、情報伝達等のための施設として必要な耐震性能を有する計画とします。

設備計画

地域の自然環境、気候風土の特性を考慮し、周辺環境と調和を図るとともに、環境負荷低減、周辺環境保全性について配慮した計画とします。

事業計画

新庁舎整備にあたっては、事業工程等を考慮し、公共団体が資金調達や設計・建設を行う標準的な事業手法である「**直接建設方式**」を採用します。

スケジュール

項目	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
基本構想								
基本計画								
基本・実施設計及び施工監理								
新本庁舎建設								
現本庁舎解体								
駐車場等整備								

事業費及び財源

項目	金額 (億円)	備考
概算総事業費	① 66.0	
起債対象経費	② 62.0	
合併特例債	③ 58.9	②×95%
合併特例債のうち 市実質負担額	④ 17.7	③×30%
市負担額	⑤ 3.1	②－③
起債対象外経費	⑥ 4.0	①－②
市負担額 合計	24.8	④＋⑤＋⑥

本庁方式への移行

今回の新庁舎の建設に併せ、現在の分庁方式から本庁方式へ変更し市民サービスの向上や事務効率化を目指します。

発行

愛媛県四国中央市三島宮川4丁目6番55号
四国中央市役所 経営企画課 TEL0896-28-6005